様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　16 日

１．職名・氏名　准教授・高尾祥丈

２.学位　学位　博士(理学)、専門分野　生物学、授与機関　甲南大学大学院、授与年　平成 18 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 水圏微生物生態学（2）　二年後期(2021 年度以前の入学生は三年後期配当)
②内容・ねらい 細菌、ウィルス、原生生物などの微生物の種類や生理を理解したうえで、水圏環境における物質の変換過程と微生物の働きについての知識を習得する。また、微生物生態学の手法についての基礎的な知識を理解し、最新のトピックスやこれまでの研究から明らかとなった現象を考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回、前回講義のおさらい、質問への回答をおこなって、復習への意識を喚起するよう工夫している。配布資料をパワーポイントで示しながら解説し、重要な中抜きにして、自分で記入するようにしている。また、重要な項目やベースとなる内容については、繰り返し授業の中で解説している。さらに、最新の知見を合わせて紹介することにより、学問と研究活動との関係を具体的にイメージが出来るよう配慮している。google クラスルームを活用して資料・講義動画を掲載し、予習復習の時間確保に努めた。毎回講義後に小テストを実施し理解度を確認し、十分でないところは次回講義に改めて解説している。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 海洋微生物生態学実験（1）3 年前期
②内容・ねらい 顕微鏡の取扱い、細菌の性状検査、器具なのどの滅菌法、培地の調製法ならびに無菌操作方法を習得する。・海洋環境の細菌の計数、水圏の環境微生物学や食品微生物学、食品衛生学で最も重要である微生物学的手法の原理を理解し、基本的な方法を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実際の海洋環境より細菌の分離を行うことで、基礎の習得のみならず環境における微生物の生態に対する理解を深める。実験の前にパワーポイントを用いて原理や実験のコツなどを解説することにおり、内容を理解して行動出来るようにしている。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 海洋生物資源フィールド演習 II(1)　2 前期集中
②　内容・ねらい 乗船実習やその準備を通じて、海洋生物資源学部における学習内容とその意義を学ぶ。グループで課題に取り組むことにより、社会が要求する協調性や主体性を持って実習を実行する能力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 主にプランクトンの観察および講義を担当している。 調査船で自ら採取した海水試料を用いること，講義において出来る限り多くの図版，写真を用いることで視覚的に理解しやすい工夫をして、海洋(微)生物学・生態学への興味を引き出すように指導している。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎演習（1）　3 年後期

②内容・ねらい
　実習や実験と研究活動との違いを講義し、卒業論文における各自の対象生物について、情報収集し口頭で発表することで、4年次の卒業論文へ向けての導入教育とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　研究活動の流れについて解説し理解させること、自身のテーマについて調査・発表させることにより、スムーズに卒業論文への理解を深められるように工夫している。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習（2）4年通年

②内容・ねらい
　微生物の種類・性質・環境中での役割・利用についての基礎知識を習得するとともに、微生物と地球環境との繋がりを総合的に考察する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　講読に先立ち、研究の流れと学術論文の科学における意義を講義して理解させ、専門書、文献およびインターネットからの情報の獲得手法を教授する。ひとつの文献に含まれる情報をできる限り多く、正確に導き出せるようにしている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業論文（8）4年通年

②内容・ねらい
　微生物学分野の課題設定と研究計画の立案および研究の実行を通じて、問題解決のためのデザイン能力を習得するとともに、自主的継続的に学習を進める姿勢を身につける。課題設定から成果のとりまとめに至る過程における討論や発表、論文の執筆を通じて科学的なコミュニケーション能力を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
定期的に進捗報告会を実施し、直面している問題点の洗い出しや解決するための討論を行うことで、問題解決のためのデザイン能力を習得できるよう努めている。また、実験の実施においては、与えられたプロトコールを遂行するだけでなく、実験の目的を明確にし、予習した上で準備・遂行することで、自主的に問題解決の行動が行えるよう工夫している。る限り多く、正確に導き出せるようにしている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
海洋微生物生態学（2）大学院1年 前期　分担（他2人）

②内容・ねらい
　微生物の種類・性質・環境中での役割・利用についての基礎知識を習得するとともに、微生物と地球環境との繋がりを総合的に考察する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　配布資料をパワーポイントで示しながら解説し、重要な項目は板書して手を動かして印象にとどめられるようにしている。受講者全員に担当範囲を設定し、内容を要約して、プレゼンさせることにより、プレゼン能力,コミュニケーション能力の向上に努めた。解説が必要な部分、最新の知見などについては、補足説明を行い、より深い理解につながるよう工夫している。

(2)その他の教育活動

内容

短期研修受け入れ　　9月9～13日　若狭高校
学問発見講座　9月13日　若狭高校
福井県立大学　学部等説明会　7月9日　高岡高校（オンライン）

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

A. Yabuki, C. Fujii, E. Yazaki, A. Tame, K. Mizuno, Y. Obayashi Y. Takao Massive RNA editing in ascetosporean mitochondria Microbes and Environments (accepted)

【　1本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④学会発表等

1. 髙尾 祥丈, 村越 祐美, 田村 至　海産ウイルス SmDNAV の感染・増殖過程 における系時的メタボローム解析　(ポスタ発表)日本微生物生態学会 2024.10.30
2. 外丸 裕司,山田 和正, 本郷 悠貴, 島村 繁, 高尾 祥丈,一見 和彦　珪藻の葉緑体に蓄積する新奇 環状一本鎖 DNA ウイルス(口頭発表)日本微生物生態学会 2024.10.30
3. 青木 美帆,陳 樹河,高尾 祥丈,山本 圭吾,神川 龍馬,吉田天士　大阪湾における Labyrinthulomycetes の 季節動態　(ポスタ発表)日本微生物生態学会 2024.10.29

【　3件】

⑤その他の公表実績

【　本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

学外

科学研究費 基盤S 分担　400(千円)
科学研究費 基盤A 分担　200(千円)
科学研究費 基盤B 分担　400(千円)

学内

戦略的課題研究推進支援　代表 400(千円)

(3)特許等取得

(4)学会活動等

第1回　水圏低次生態研究集会　大会実行委員長　9月9-10日

国際ウイルス分類委員会 International Committee on Taxonomy of Viruses (ICTV), Fungal and Protist Viruses Subcommittee, Marnaviridae Study Group member

５．地域・社会貢献活動

公開講座 海のふれあい教室プランクトンの世界をのぞいてみよう　５月５日　福井県海浜自然センター

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
全学 職場委員小浜事業所過半数代表 学部・学科 オープンキャンパス担当 フィールド演習Ⅰ課題研究担当
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス，ミニオープンキャンパス，白樫祭
(4)その他、自発的活動など